幼兒教育

第二十卷第八號

大正九年八月十五日發行

目次

我國の現狀と幼兒教育問題……乘杉嘉壽
簡易幼稚園及其方法の研究についての希望……乙竹岩造
豆ちぎり……京都日彰幼稚園
林間保育について……滋賀八幡幼稚園

雜報

發達せざる心の偉大さ……菅原敎造述
子供と食物……青木醇一述

日本幼稚園協會

會告

○會費御拂ひ込みの節は御名前は初め御入會の時の御名前と御同一になし下され度く、例之ば初め幼稚園名にて御入會、後、個人の御名前にて會費御拂込み等のことなき樣必ず願上候整理上甚だ煩雜致し候につき右特に御注意願候

○會費未納は會計整理上甚だ困難致候に付確實に御納付下され度向後萬一御不納久しきに亙り候場合は乍遺憾雜誌發送を停止可致候間左樣御含み置願候

○會員諸君にて御轉居等の節は至急御一報願上候

○萬一本誌不著等のこと有之候折は直に御一報煩し度候

本誌定價

一册（郵税共）金貳拾五錢　六册　前金壹圓五拾錢
十二册　前金　參　圓　（郵券代用壹割增）

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。（振替口座東京一七二六六番）

大正九年八月十二日印刷
大正九年八月十五日發行

東京市日本橋區岩附町一番地
編輯兼發行者　小高艷

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷者　柴山則常

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷所　杏林舍

東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
發行所　日本幼稚園協會

幼兒教育　第二十卷第八號　大正九年八月十五日發行

我國の現狀と幼兒教育問題

文部省事務官　乘杉嘉壽

歐米では、幼兒に對する教育については、他の一般の兒童教育の完備とゝもに、相當に研究もせられ、施設もせられて居ることは、衆知の事實であるが、今回の世界戰亂の結果、歐米における幼兒教育の問題は、戰後教育の諸問題中、最も重要な、また、意味深き問題となつたのである。といふのは、單に教育學上の見地から、教育はその兒童の心身の發達に應じてなるべく早くこれを授ける方が有效で且適切であるといふだけの單純な理由ではないのであつて、歐米における參戰諸國にとつては、幼兒教育の問題はもはや理論上のことでなくて、目下さしせまつた事實問題となつてゐるのである。そは、これら參戰諸國における現在の幼兒は、その精神上に於ても身體上に於ても、戰爭より直接にまた間接にうけた結果影響が實に著しくあらはれて居ることである。獨逸はいふ迄もなく、英國でも佛國でも過去五箇年間の戰爭によつて、その一面には、人生の花といはるる壯丁の大多數が或は戰死し或は負傷し、ために、現在及將來における國運の發展に與るべき有力なる國民が、數に於ても質に於ても大なる損害を蒙つたとゝもに、次代の國民たるべき、子供の出產率が大いに減少したといふことは事實である。更にその生れたる幼兒が—戰時中に於て—一種特別なる狀況にあるので、大戰にともなつて精神上にも物質上にも大なる打擊を蒙つた人々の間に生れた子供は、やはりその影響をうけてゐるのである。特に著しきものを戰爭兒(War infant)となづけてゐる。卽ち非常に神經質であるとか、或は意志薄弱なる子供が生れ、

又身體の方面では特種な不具者、また不具とまでは行かずとも、發育不充分なものが多數生れ出たのであつて、これは戰時中、いろ〳〵の悲劇からおこる親の悲嘆憂慮が子供の精神及身體に影響するところの大なりしためで、無理もないことである。

また、食物及衣服の大缺乏といふことも、發育盛りの幼兒にとつてどれ位、わるい影響を與へたかわからない。そこで、これら戰爭兒の敎育如何といふことが國家の將來に重大な關係を及ぼすので、各國とも、これには力をつくして居るが、ことに英國は他國に率先して、夙に、この問題の解決に焦慮研究の上、既に一九一八年の新敎育法に於て、Nursery School（幼兒保育學校）の制度を確立して、全國各地における滿二歲より、滿五歲にいたる迄の幼兒にして、その父兄が、家計の關係上、充分に養育の任務をはたすことの出來ないものに對しては、國家及地方公共團體が協力して、洩れなくかゝる幼兒を收容し、一面には、これら幼兒の養育に力をつくすとゝもに、また、相當の敎育を加ふべき立案をなし、今やこれが實行に進みつゝあるやうな次第である。

また、獨逸に於ても、敎育界その他慈善事業に關係ある人々が、戰時中ならびに戰後における幼兒の保育問題について、非常に熱心に研究し、これが救濟と保護とに盡力して居ることについて、最近各種の報告に接したのであるが、しかし、未だ、英國のごとく、統一して、系統的に、これら不幸なる幼兒の保護問題を取扱ふ手段が確立してはをらぬようである。たゞ自國の幼兒保育に對する戰時及戰後の窮狀を廣く天下の有識者に訴へて何等かの解決を見ることをねがつてゐるようである。

その他、フランスに於ても同樣であつて、ことに米國に於ては幼兒保育の問題については、一般に民間有志者の盡力のほかに政府としても、特に勞働省に於て兒童局を設立して該問題に關する諸方面の調査研究は勿論のことこれが施設を督勵して居るばかりでなく、既に最近に於て幼兒保護問題について世界的の會議をワシントンに開催して、ひとり自國の敎育者の注意を喚起したばかりでなく、諸外國、ことに我國に對しても幾多のよき參考の材料を提供したのである。

翻つて我國の現狀は如何にといふに、元來我が國

では、一面には家庭制度をもつて社會組織、國家制度の基礎としてをつて、各家庭に於て、幼兒に對する父兄の態度は外國に比して寧ろ餘程重要視してゐるのであるが、これを一言にしてあらはせば、我國の父兄は、幼兒に對しては何者をも犧牲にせんとする情愛の深きものがあるといふことであるが、さて、しからば、幼兒保育に對する理智の方面は如何といふに、遺憾ながら、これは甚だ不充分であるといはねばならない。このことは幼兒に對する教育の現狀を見れば明瞭であつて、我國における幼稚園の發達が甚だ遲々として進まぬこともその一つであるが、中流以下の階級の幼兒を保育する施設については、政府も公共團體も、これに著手することの至つて少なきをみても、我國が該問題に對してこれまで熱心であつたとはいはれない。今少し、識者が世の蒙をひらいて率先してこの事業の甚だ大切なることを示さなければならぬと思ふ。これは、單純なる教育問題としても勿論大切であるが、國の現在及將來について最も考慮を要すべき社會的施設の一端としても、甚だ重要な地位をしめるものであることは、今更說明を要しない。

勿論、我國は、前述の英、佛、獨、乃至アメリカの如き、戰爭兒(War infant)を有せぬのであるけれども、しかし、今日の家族制度による家庭だけに、幼兒教育を一任してかへりみないとはいふことが、やがて、國家の存立の上に、將來重要な意義を齎すものと考へなければならない。

我國が家庭本位なるが故に、しかしてその家庭そのものが、教育上望ましからぬこと多き現狀に於ては、一層、この幼兒保育の問題について、政府ならびに公共團體が注意を怠つてはならぬのみならず、この際積極的に施設するところがあらねばならぬ。ことに、下層階級における幼兒の保育に於ては、たま〳〵その施設を行ふものも、甚だあやまれる前提のもとにこれを行ふものがあるかと思はれる。こは單に幼兒に對する場合のみならず、一般に下層民に對する政策の上に、都會も地方も、ともに一つの誤解をもつてゐると思ふのである。卽ち、近年物價騰貴にともなひ經濟上の變動につれて各種の慈善事業が行はれたのであるが、どうも慈善とか救濟とかいへば、すぐに物質的の供給を先にする傾向がある。もとより、物資の供給は必要であるが、同時にまた

精神的教養の價値の甚だ大なることを忘れてはならぬ。即ち、今日の貧困者乃至勞働者の救濟問題は物資の補助乃至給與よりも、むしろ彼等の精神上の修養の機會を與へることを主眼とせねばならぬ。救濟慈善の要は、寧ろパンを與ふるよりも、彼等に精神上の慰安を與ふる方が大切であると思ふ。よし、下層民としても、今日の狀態では、働けば必ずパンを得られる。しかも、そのパンは下級の官吏や教員にも劣らぬ程度のもので、其生活を支持するだけの收入があるのである。しかるに、これにともなふ精神教育の機會を與へざるがために、折角の救濟も慈善も效果少く、たゞいたづらに、野獸に食を與ふると同じことで、結局、飼ひ犬に手をかまれるの恐れなきにあらざる有樣である。この見地から見ても少くとも將來の我國の幼兒保育の問題については、充分考慮して、官私ともに、大いにこの問題のために努力せねばならぬと思ふのである。況んや、世間一般が、幼兒保育に對して、甚だ冷淡である我が國の現狀を思ふときに、誠に寒心にたえぬ次第である。

將來、この問題については、なるべく、世の識者爲政家の注意を喚起し、且地方を督勵して、この方面に力をそゝぐようにしたい、最近、我が文部省に於ても、社會教育施設の一端として、一般に、幼兒保育、ことに、教育的託兒所の施設を督勵したい考へをもつて、今回、各府縣にをかれたる社會教育主事とそれぞれ協議して、この事業の擴張普及をはかるように、衷心から希望してゐる次第である。

（談話：未校閲、文責在筆記者）

○文部省保姆講習會

既記のごとく、本年度夏期講習會は、七月二十六日から八月四日まで、東京女子高等師範學校講堂に於て開催されました。本年は講習をうけた方々は百餘名に達しました。毎日午前七時から正午まで連日のあつさにも拘らず、一同熱心に聽講されました。

○日本幼稚園協會遊戯講習會

土川五郎先生の遊戯の講習會は七月二十六日から八月二日迄毎日午後一時から五時過ぎ迄東京女高師講堂で開かれました。先生のいつもかはらぬ熱心あふれた教授振りには、講習員一同、午前の疲勞も、眞晝の暑さも忘れて、ピアノの音に醉はされながら、皆子供にかへつて舞踊しました。「少し休んで拜見しませう」と腰下してゐた人達も、いつのまにか我をわすれて遊戯のグループの中にはいつてゐるのでした。豫定以外の日をまで、さしせまる御旅行のその時まで、先生は割愛して一同のためにおつくし下さいましたことは、感謝にたえません。

簡易幼稚園及其方法の研究についての希望

東京高等師範學校教授　乙竹岩造

簡易幼稚園といふことは、實は、自分が、かれこれ十年このかた考へて居つたものであつて、いつか何等かの機會に於て、保育のことに當つて居らるゝ方々に申上げて見て御參考に供し、且つ出來ることならば、御研究を願ひたいと思ふて居つたことなのである。それで甚だ漠然として居ることではあるけれども、申述べてみようと思ふ。尤も自分はその實際的の方法をこまかくたてゝゐるといふわけでもなく、又、外國でやつてゐることでも無く、單に一つの思付きに過ぎないのであるが、然かしまるで雲をつかむやうな話でも無いと自分は思ふから、自分の考へてゐる所をそのまゝ述べてみやう。尤も簡易幼稚園といふ名が不適當かもしれない、若しさういふ名が思はしくなければ、その名は何とあらためてもよからうと考へる。それから又これはあまり漠然として居て實行が出來にくいといふことならば、また、考へなほしてもみたいと思ふのである。

一體、學齡未滿兒童の敎養といふことの重大であることは、今更申すまでもないことである。しかるに家庭を助けてこの期の幼兒の保育に當つて居る幼稚園といふものを考へてみると、都會地などには、數々あるけれども田舍などには一向少い。全國について考へてみれば、一縣に六つか七つに過ぎまいと思ふ。したがつて其處に收容し得る幼兒の數は、その地方における學齡未滿兒童の總數にくらべれば、殆んど比較にもならぬのであつて、實際幼稚園の恩惠を蒙むつて居る幼兒は、まことに少數であることは言ふまでもない所である。

尤も各々の家庭が、幼兒の敎養に充分の注意を加へ得るならば、無論、これにこしたことはないのであるが、然かし仲々實際はさうは行かない。そこで、

家庭を助けてなるべく多數の幼兒をして、適當なる保育の恩惠にあづからしめるといふことの工夫はどうしても必要である。しかるに、本統の幼稚園は一定の設備を要し、素養のある保姆がその保育に當るのであるから、さういふ幼稚園を津々浦々にまで普及さすといふことは、切に望む所ではあるけれども、仲々行はれ難い。そこで何とかして適當な方法を講じたいものと、兼々思うておつたのである。實際家庭に於て、學齡未滿頃の幼兒の敎養の有樣を見ると、なか〳〵手がとゞか無いのが多い。大體は放任勝ちであつて、ともすると怪我をさせたり、心身ともに自然の發達が妨げられたり、或は不良の習慣がついたりして、その結果、一生涯治することの出來無い缺陷をもつことになるといふような場合も決して少くはない。所が今も言つた通り、幼稚園の數は極く少ないのであるから、兎に角、極く手近な簡易な方法で、少しでも幼兒の敎養に補益あらしむる途を考へるといふことであらうと思ふ。

現代における子供の生活といふものを考へてみると、極端に形容するならば、一喜、一憂交々いたるといふ感が無いではない。といふのは、世の中が段段進歩して來た結果、今日は都市といはず田舍といはず、工業、商業、農業各方面共に仕事が大變進んで來たのにつれて、それが爲に、子供の自然の遊び場所といふものが奪はれ勝ちであるように思はれる。彼等が、自由に樂しくかけまはつてゐた野原には、倉庫や會社がたてられる、彼等が思ふ存分つばなを摘んで遊んだ廣場には、工場や製絲場がたてられて板塀や境が出來て「無用のもの入るべからず」と立札が立てられたといふようなわけで、子供の遊び場は次第に彼等から取り上げられる。その上、都市では、電車よ、自動車とおひたてられて、街上で安心して遊ぶことさへ叶はない、實に近代文明が子供の遊び場を奪ひつゝあるといふことは都鄙を通じての事情で、子供の爲といふ見地からは悲しむべきことゝ言はねばならない。しかし、また、これと同時に、他方には、子供のために公園がもうけられる、鎭守の森がよく手入れをされたり學校の運動場が開放せられたりして子供のよい遊び場所が出來る。ことに都會の地には兒童遊園が出來る——歐米では、公園内に子供專用の場所を設けて居るところが可なり多いが——といふように、次第に子供のためにと

考へて來る趣向がないでもない、これは又洵に喜ばしいことゝ言はなければならぬ。兎に角社會の各方面の進歩は實にめざましいもので子供の生活の上にも影響する所が少く無い。そこで子供の教養の問題の如きも亦かういふ事情に適應して行くことを考へなければならない。

これは場所の上から子供の生活の工合の推し移ることを述べたのであるが、次に人の點から考へて見ても以前と大分に工合の變つて來て居る所があるやうに思はれる。これまでは、普通の家庭——上流は別として——で子供が幾人もあれば、年長のものが幼い弟妹の子守となり遊び相手となりして守りをしたやうな場合が隨分多かつた。又親にしても、主人は外出勝ちであつても、主婦は、大抵家にあつて、家事の傍ら子供の養育に日をおくるといふのが普通のことであつた。しかるに生活の狀態がかはつて來た結果主人だけでは無く主婦も外に出て働くことが多くなり、又工場や製絲場やその外色々の業務の發達は、小學校をおへるや否や、これらの幼兒のよい遊び相手をわづかの勞銀をもつてかりたてゝ行く。かくて幼兒は、その遊び相手をさへ奪はれて、家庭において、最も自然に保育をうくるといふことが誠に困難になつて來たといふやうな事情もある。

けれども、如何に社會の生活狀態が急劇な變化をして來たにせよ、幼兒は幼兒である、自然が與へたその幼兒期をおもふまゝに生きたいのである。遊び場所を求める、遊び相手をほしがる。ないから、與へられないからといつて彼等の盛んな生活力はやむものでない、なければ探す、そしてどんなところでもかまはず、又誰でも選ばず相手をもとめて遊ぶ、こゝにいろ〳〵の弊害が生ずる、おもひもうけぬ危害を受ける。甚だしきは野放し同樣の有樣で不良の習慣を得るやうな虞も無いではない。これは最も寒心すべきことである。

そこで、この有樣を如何にすべきかといふに、自分の考へでは、村でも鄉でも、そこの有志の團體が發企して、小さい子供等をあつめて、精々注意を加へてやつて遊ばせるといふことにしたい。鎭守の森に、又はお寺の庭に、橋の畔に、二三人の子供が集まつてゐるとする、「さあ誰も彼もいらつしやい」とそこに散在してゐる子供を集める、そして其處ですぐに幼稚園を始める、朝でも、晝でも、何時でもかま

はない、天氣でさへあれば青空を天井として、石ころも草も、みんなよい自然の遊具とならう。たゞ彼等がそのまゝに打すてゝ遊ばせておけば、よくない歌をうたつたり、惡いことを覺えたり、危險に近づいたりする、そこで一方にそれをふせぎ、他方に積極的に彼等の遊びを善導することが出來れば、その時間中、その場所での簡易幼稚園は成功したわけである。そして出來れば、彼等の健康狀態などにも注意を加へてやる。大層顏色がわるいとか、元氣のないとかいふものがあれば、親に注意をしてやる位のことも、したいものである。かゝることは、たゞ一方法にすぎないけれども消極的にも、積極的にも、幾分にても、子供等に保護を加へてやることが出來ればそれだけでもよいわけである。設備だとか、遊具だとか、いつてゐては、在來のような幼稚園をそう澤山に、あまねく設立することは仲々六かしい。斯ういふ簡易なものを實現することはさう六かしくは無い。子供の集まるところに、その遊びを指導監督する世話人がありさへすれば出來るわけである。世話人のことであるから、必ずしも本統の資格のある保姆でなければならぬといふわけでもあるまい。その町の、その村の隱居さんといつたような老人でもよければ、或はその土地で多少閑のある、又、子供好きな人が子供と一緒に遊んでやつてそして常識的に彼等の生活を善導するだけでも、無いよりはよい。教師などをしたことのある老人などが篤志でやつて呉れゝば最も仕合せである。かういふようなことが出來れば、ごく簡單に、且、ひろく、子供の遊びの監督、指導といふことが出來るわけである。

元來、子供を教育するといふためには、先づ子供と握手しなければいけない。又更に、その子供の屬する社會と握手しなければならぬ。私のいふ簡易幼稚園といふのは、教育が、この、社會と握手するようにといふことにある。勿論整つた幼稚園をどうかういふのでは決してない、私、自身は、都會に住んで居るお蔭で、子供に幼稚園の恩惠を享けさすことが出來て、最も深く幼稚園の恩惠をしみじみ感謝して居る一人である。それで本統の幼稚園では充分に保育の方法を考究し、つねに徹底的に幼兒の保育の方法が實施せられなければならないが、これと同時に、かういふ本統の幼稚園で實施せられ研究せられ

た事柄の中で、さう設備などの無い所でも、實行出來る或事柄は、これを宣傳し普及せしめて一般民衆の間に於ける幼兒敎養の實際を進めるといふことに資することが頗る必要なことかと考へるのである。これも實際問題としては仲々骨の折れることではあるし、又それを充分に行ふには相當の方法と相當の年月も要ることではあるが、然かし兎に角幼稚園で研究せられ實施せられた事柄の中で、道具も簡單で設備もさう要らないといふやうなことを簡易な方法で廣く行はせる、又たとひ方法が違つても、兎に角幼兒保育の趣意を最も簡易卑近に擴めるといふことは大事なことのやうに思はれるのである。

實際、家庭で手のとゞく子供によりも、家庭で子供にかまつてゐられないような階級の子供にこそ幼稚園が特に必要であらうと思ふ。かの幼稚園の開祖といはれてゐるフレーベル氏が初めて幼兒保育の事業を始めたのも、出發點はやはり此處にあつたのであるし、近頃モンテッソリー女史のかの「兒童の家」に於ても、收容された子供は貧兒であつたのである。幼稚園の主旨が一方に深く徹底することの大切なのは論をまたないが、又、これと同時に、なるべく廣く及ぶやうにするといふことも仲々必要である。

尤もこの簡易幼稚園の實行のためには、實際これに當たる人を要するは、勿論であるとゝもに、市町村の人達が、學齡未滿幼兒の生活敎養に對して充分の理解と同情とをもつといふことが大切である。さうで無いと到底むづかしい。それから又實際これに當る人であるが、これもむづかしいことをいつてゐては、仲々人を得られない、又贅澤な設備をのぞんでは到底不可能である。唯だ子供好きの人が、ごく親切な心で、その閑を子供とゝもにくらしてくれるのであればよい。斯ういふ風にすれば、左程實行は困難でなからう。フレーベル氏のやりかたを考へて見ても、やはり私の云ふ簡易の方法で、初めは、自分の居る森の中で、身内の者の子供を集めて遊んだのである。そして、その後とても、諸々遍歷して、いたるところに其主旨を宣傳したのである。

近頃は、各方面に通俗講演などが行はれて、修養の上にも、生活職業の上にも、裨益を與ふるところが甚だ多いのは洵に喜ばしいことである。勿論各種事業の改善、その發達に力をつくすことは大切で、商業の方面や工業の方面や農事の改良や一般に普及

せしむべき事柄は實に多いに相違ない。しかし遺憾なことには、これらの講演會に於て兒童の問題に關する事柄の取扱はれることの猶ほ割合に少いといふことである。如何によい事柄もこれを受け繼ぐべきものが立派でなければ、何にもならないのだから今日の仕事を繼承すべき兒童等の健全なる發達の保護その敎養上の顧慮が極めて大事なことである。それがもつと盛んに叫ばれなければならない。とにかく、かういふやうに幼兒保護の問題なども、かういふ講演などに於てよく宣傳せられて充分の理解と同情とを一般の人に與へたいものである。

以上、私の所謂簡易幼稚園なるものゝ意味と、その必要ならびに、普通の幼稚園との關係などを大體述べたつもりである。しかし、初めにもいつたように、これは、私は、たゞ漠然と考へてゐることで、その詳細にわたる實行の方法は、どうしても、現に保育に當たつて居られ又長い實際の經驗を有つて居らるゝ方々の御研究にまたねばならぬ。私は、實際幼稚園事業にたづさはれる方々が、かういふ方面にもお考をお加へくださるゝことを切におすゝめする次第である。

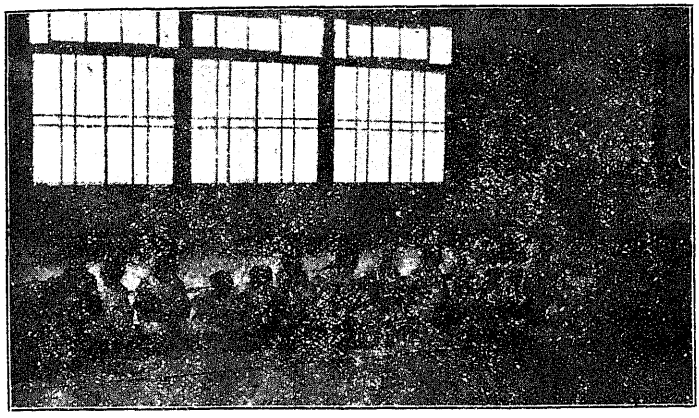
我國民は、昔から子供を大切にする國民といはれてゐる。外國人の紀行などの中にも、よくそうしたことがかいてある。先年、私が歐洲に居た折に、有名なエレンケイ女史に會つたことがある。その時女史が曰ふにあなたの國では、親が子供に非常な注意をはらひ、中流以下の人でさへもさうであると聞いてゐるが、歐洲人は、この點では、貴國に學ばなければならぬと。我が國において、兒童取扱ひの現狀は、果して女史のいふが如くであらうか。大切にするといふ精神はあつても、その實際の方法が充分に講ぜられて居るであらうか。況んや、世界大動亂の後をうけたる今日、その多事なる國家を脊負つてたつべき次代の國民——子供——の敎養に、各國とも非常な力をそゝいて居ることは明白な事實である。

我國も、この點に就ては今後益々努めなければならぬのは無論のことである。それは前にも言つた通り、家庭、幼稚園、學校、社會が互によく握手協力して進まねばならぬ。家庭には手のとゞかない家庭が多く、幼稚園は到底多數の學齡未滿兒童を收容しきれないとすれば、家庭を助けて、動もすればなげやりにされて居る幾多の幼兒に敎養的影響を與へるやうに努むることは大事な問題であると思ふ。それ故これに就て、私の年來考へておつたことを、此處にのべて實際家の方々の御參考に供し御研究を願ひたいと思ふのである。

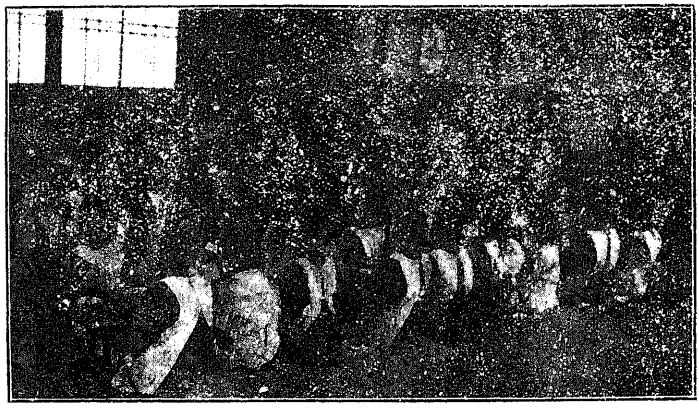
（談話・文責記者）

豆ちぎり

京都日彰幼稚園



手づからの種を蒔いて出來た豆の皮をむく所



豆のおかづでおべんとを食べる所

例年の通り平野へ豆の種蒔をしたのは去年十月二十八日であつた。そら豆と豌豆をまいた、皆それ〴〵自分の名札を立てゝ置いたのだつた、それから三月目の十一月末に行つて見た、勢のいゝ豆の芽は出てゐたので幼兒は皆自分の名札をさがしあてゝよろこびの聲をあげてゐた、其成長を時々見にいつて實るのを待つてゐたのが月滿ちて美しい實は結ばれた、去年に比して出來ばえが良くなかつた、それは丁度實る頃に雨風の

強く吹いたのでたほされた、ためである、去年の半分しか收穫がなかつたけれども幼兒全體の一飯の御菜には不足ではなかつた、五月中にとりに行く筈であつたが天候の都合で行けなかつた。六月七日に出掛けた。土曜日であつたので朝の中にとつて來てお晝の御ちさうにしやうと云ふもくろみだからずい分忙がしい、九時に出門して平野についたのは十時であつた無論電車である。約一時間ですつかりちぎつてしまつた、それを持つて歸つて皮むきを皆でした(寫眞一部)むけた順に三鍋でたいてしまつた。廣い遊戯室は食堂にあてられた。年長組のものにおはこびや配列などを手傳はしめて用意が出來上つた。ご飯だけの御辨當をもつてそれ〴〵席が定まり、頂きますの挨拶あつて箸をとつた、「うちの豆よりおいしいなあ」なんて云ひ合つて食べてゐるのも心うれしい、

(寫眞は其の一部)

約一人に五勺あてに盛り分けたのに、例の中京式の小食であるので大抵の兒は殘した、中には、二はいも平げたものも數人あつた、そら豆も豌豆も一しよにしたのである、割合に皮がやはらであつたので皮共に食せしめた。

○言ひわけをしない生活

子供が綺麗な花を手にもつてゐるのを見て、何氣なく、「まあ、綺麗なお花れ」といふと、「これ、摘つたのではないの、落ちてゐたので拾つたの」かうした言葉をあの可愛らしい口からきいたとき、ゾッとするほどいやな心持ちになつてしまふ。「えゝ綺麗でせう、」と何故いつてくれないのだろう。しかしこれは大人の世界の反映にすぎない。私達は言ひわけをよくする。他人がどう見るだらうか、どう考へるだらうかといふことを兎角氣にしすぎる、自分が信ずるところをありのまゝにしてゐれば、それがどんなに見えても思はれても、それは見る人々の心々で如何ともすることは出來ない。十人ゐればそこに十色の見方がある。八方美人にはなれる筈がない。ことに幼稚園の生活では、他の教育の場所のように、一定の教科もない、課程の進度表もない。一日の生活は實に先生自身の心持にある。その人生に對する考へ方にある。かうした深い生活を、たゞ一寸外部から見ただけで批評も出來る筈がない、わかる筈がない。先生自身は、だまつて、ちつと自分の信念のまゝに、子供と生活して行く以上にどうにもならない。言ひわけばかりしてゐては自分も子供も本當に生きて行かれない。誰かゞ「だまりこくつて死んで行く。」といつたが、本當にだまりこくつて生きて行けるようでなければ、生活に深みはないと思ふ。「何故さうしたか」といふ問を不用意に子供にあびせることは氣をつけたいものだ。まして、きゝもしないのに子供の方から言譯けして來られると返事もしたくない。なさけない氣がしてしまふ。私達は、だまりこくつて自ら眞實とおもふところに安心して生き、安心して子供の相手となつて行きたい。

(T.K)

林間保育について

滋賀縣八幡幼稚園

○林間保育を試るにあたりて

幼稚園の創設者フレーベルが、現時の幼稚園をみたら、どんなにか悲しむことであらう。フレーベルは、幼稚園の目的を定めて、自然の裡に、自然を通して導くものだといつた。しかるに現時の幼稚園は、どうであらう。何れも室内保育が主となつて、恐らく、庭園はせまくるしく、樹木は禿げて、石なく、水なく、動物なく、植物なく、子供の欲する自然物は、殆ど形ばかりのものが少くない。否、幼稚園といへば、通園の關係上、大方、都會の中央にあつて坪何十圓といふ場所であるから、いくら欲しても庭園を得ることは難しい。況んや、せまくるしい家の中に、澤山に幼兒をおしこめて、空氣のきたない、塵埃つぽい裡におくのではまことになげかはしい。しかも、文明は、諸種の效果を齎したが、其の餘弊として、次から次にまして來る刺戟は幼兒にとつて、應接に暇あらしめないのみならず、つひには、神經過敏ならしむる傾向がある。また、消化器病、呼吸器病、貧血症、神經衰弱症等は隨分少くない、實に國家の前途、憂慮にたえざるものがある。

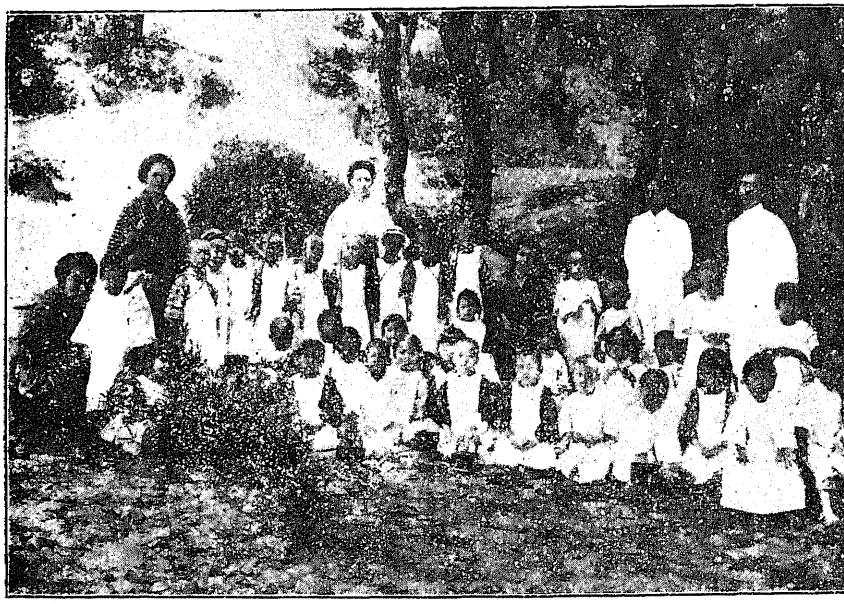
こゝに於て、本園は、次に記すやうな方法で、清潔な空氣、開濶な境界、摘まんと欲する植物、捕へんと思ふ動物、拾はんと努むる鑛物等のみちた天地に、自然の豐裕な林間保育を行ひ、もつて、幾分なりとも、その弊をためたいと思つたのである。

○實際の方法

時日……大正九年七月十二日から同十八日に至る一週間、午前八時より同十一時三十分に至る。

場所……八幡山中腹田樂山

幼兒……初め、園醫により體格檢査を行ひ、終り



に再び檢査を行ふて比較する。左の條件に該當するもの。

（イ）身體虛弱であつて、林間保育を必要とするもの。

（ロ）神經過敏であつて、靜寂な林間生活を必要とするもの。

（ハ）病後（麻疹或は消化機能不全のもの）久しく恢復せず、林間に於て、充分の運動と、新鮮な空氣の呼吸及適當の飲食物の供給及休息等によりて、健康を恢復せんとするもの。

以上の如くで今回は總員三十七名で、その內、體格よわきもの六名、中なるもの二十一名、强なるもの二名、病後恢復を目的とするもの三名、神經過敏なるもの五名　保姆は片岡氏とし、木下、池田、竹村の諸氏交代し、大西園長、中島園醫等毎日一回視察のことゝした。

保育の方法としては、恩物は全く自然物を基礎とし少しばかりの積木、玩具、洗濯器等を用ひ、ヴァイオリンを以て、唱歌遊戯等を行はしめ、必ずしも一定しない。但し、これらを行ふには、常に幼兒の內的生活の表現にまかせ、自由に、一齊に、個々に機

にのぞみ、變に應じてこれが善導に努めることゝした。實に自然の材料は無限であつて、幼兒を滿足せしめ、嬉々快樂のうちに、其の目的に達し得ることを長所とするのである。

携帶品としては、毛布、積木、石盤、石筆、はさみ、絲色々、雜布、袋、筵、救急用具、鐵砲、まり、シグナルベル。洗濯具。

○一週間後の成績

今、初めての試みとしての、この林間保育に於て、實際に感じたまゝを一言すれば、すべて、人爲の業は如何に周到な用意をもつてしても、著手の最初は、經驗のあさきため、知識の及ばざるため、まゝ、思はざる障碍をおこし、豫期の結果を收めがたいのが常である。而して、今回、菲才無經驗の私共が、我園最初の試みを實施せんとするに當つては、只、專念、幼兒の身體及精神狀態に著目して、最善と信じたる方法を採つたのみである。ところが、各兒とも、豫想以上の發達をなし意外の成績を收め得たのは誠に幸なことで、ことに晴天つゞきであつたことは、實に天運ともいふべきであらう。

わづかに一回の經驗から直ちに結論することは、早計に失するけれども、虛弱なる幼兒の體育には、林間保育が最も有效なりとの確信を得たのである。今每日の有樣をしめせば、先づ八幡神社に參拜して、歌唄ひつゝ目的地に到達し、さて、思ふさへ心地よき環境のうちに、何等の拘束なき自由の天地を見出し、つきせぬ自然界の財源を、右から、左から處置する態度の熱心なさま。背に汗し、顏面熱蒸のそれのごとく、見るからに元氣づいて、これが平素園內に居る同じ子供等とは受取りかぬる活動振りに、「お茶お茶」と、十時頃から、幾度か繰返される言葉こそうれしかつた。清鮮な空氣のうちに、運動をはげしくするために、一杯のお茶に舌鼓うつ彼等の笑顏は天地何物にもたとへられない位に思はれた。

身體的方法の發達は次のようであつた。

一、體重增加は平均一人に付き六十八匁〇三厘但し減少後增加二名、減二十匁（疲勞のためならん）。

二、胸圍增加……平均一人に付二分九厘四毛强。

三、身長增加……平均一人に付一分〇六毛。

四、皮膚赤褐色となり抵抗力を增したるもの五

名。

五、食慾を增進せしもの……七名。

六、健脚となりしもの……二十二名。

七、活動に馴れたること……全部三十七名。

精神的方面としては。

一、友誼を篤うせしこと。

變化ある生活、坂あり、崖あり、花鳥あり蟲あり、苦樂相伴へる環境内にありて、共同生活をなす間、お互にいつくしみあふ感情をやしなひ得たのである。

二、保育者と幼兒との關係密接となり、殆んど母子の情を生じ個性の觀察を便ならしめたことは、多大である。

三、知識啓發はもとより、期するところではなかつたけれども、從來識らなかつた方面の知識を得た。例へば、山に行く途中、山は何で出來たとか、松は初め何處から持つて來たとか、蟬はなぜなくとか、地震で山が出來たのかとか、この草は何といふのかとか、荻はいつ咲くかとか、いろ〳〵のことをいふ。笹舟がうかしたいとて水を探したり、舟は何故うくのかと考へ込む。質問もお話もなか〳〵面白く、時には、三上山を眺めながら俵藤太の百足退治の話をしたこともあつた。

また、山をのぼるのにも、初日は登山三百五足するのに中途で一休してのぼつたのであるけれども、三回目からは、「茶屋が見えた、早く登らう」とて道の時間も早くなり、又、三回目にスベリ山、及び、運動場のある山（高さ二倍位）へ行く幼兒は、十六名で、少し疲勞を感じすぐに下山したのであつたけれども、五日目からは、子供の方から、スベリ山へつれて行つて下さいといひ、行きしもの二十二名で、疲勞も感せず、體操棒、ブランコ、スベリッコなどをなして、歸るをいやがる幼兒さへあり、二日前よりも健脚となりしことを認めたのである。

かくのごとく、三十七名の幼兒の生活は、全く世の常の樣とも思はれず、人間界の刺戟が少くて、ただ、大自然のうちに包容されておくつた一週間は、期間としては短かいけれども、これら幼兒にとつては意義あるものであつたことを高調せざるを得ない。

發達せざる心の偉大さ

＝某講演會における講話の一節＝

文學士　菅原教造述

原始人の藝術は、その洞窟の壁にかゝれた繪にしても、小石や骨片にきざまれた彫刻にしても、單に、慰みのためといふのでなく、彼等の內的生活のやみがたい慾求から迸り出た表現であつて、卽ちその慾求とは、實に、食慾、性慾の二つがその主なるものであつた。しかも、彼等のこの慾求の源泉となつたものは、彼等の原始的な宗敎生活であつて、かの今から二萬五千年前の原始人によつて畫かれたと稱せられる、スペインのアルタミラ(Altamira)洞窟の壁にある野牛(バイソン)の繪のごときはこの動物が食用に供せられるために多く畫かれ、又、獵して多く獲物があるようにとの呪禁(まじない)の意味でも畫かれたのであつた。石器時代の女の胸像や胴體(トルソ)にしても、性的の慾求をあらはして居ると見られるものが多いのである。彼等の生活を考へて見ると、現代のやうに、宗敎、藝術、科學の三つにわかれる以前の世界、卽ち不分化時代ともいふべき世界に生きて居つた。彼等の心を支配して居つたものは、トーテミズム(Totemism)であり タブー(Taboo)であつた。トーテミズムと云ふのは、原始人がその種族の有する表號を崇拜することで、その表號は動物とか樹木とかいろ〳〵あつて、例へば、熊族といへばその種族の人々は熊をおかすべからざる神聖なるものとして之を禮拜するのである。タブーとは神聖にして犯すべからざるもの汚穢にして近づくべからざるものに對する禁忌を意味する。例へばある一定の時になれば男子は婦人に近づくをゆるされないのでその時期にある婦人はタブーである。道德も宗敎も、かくのごとく、トーテミズムにより、タブーによつて嚴肅にたもたれて居つたのである。男女の貞操といふことも今の人の考へるのとは餘程面目を異にして居て、理屈ではなしに、彼等の純眞な心から、だゞ感じ、たゞおかすべからざる

ものとして之を守つたのであつた。かくてこの時代は、所謂、神人合一ともいふべき時代で、神話意識の中に皆が生きて居たのである。彼等は、官能の世界に強烈に生きた。そしてそれに應じて美しいと感じ、みにくいと感じ、壯嚴と感じたその感じそのままの——卽ち情操の世界——中にぢつと浸つて生きて居つたのである。しかもその官能なり情操なりの潤澤豐麗なものを、色なり形なり音なり言葉なりの方便によつてあらはして來た。これが彼等の藝術である。そは、彼等の人間らしい心からおさへきれずしてあらはれ出たもので、藝術は、官能なり情操なりの表現卽ち一つの記號であり象徵であつた。

宗敎と藝術と科學との三つにわかれるまへの彼等の生活は實に原型(プロトタイプ)としての生活をつづけてゐたので、こゝに我々現代人のように知識に中毒させられたものには思ひもおよばない眞實な世界がある。我々はこの我等の故鄕にかへつて、その如何に感じ如何にあらはしたかを謙遜の心でみつめてこそ初めて人類の故鄕卽ち人間そのものがわかるのである。

翻つて子供の生活を見ると、彼等も亦この原型のまゝに生きてゐる。しかし原始人と子供とを比較してみると、必ずしも同じ程度の强烈な慾求をもつて現代の子供は生きてゐない。食慾といふことはとにかく、性慾とか宗敎味といふような點に於ては、(學者によつては隨分早くから性的慾求のあるように說く人もあるけれども)全然原始人と同じとはいはれない、たゞ子供は實に原始人におけるがごとく眞實に生きてゐる。不分化の狀態に生きてゐる。彼等の眼に映ずる自然は實に彼等にとつて、生命のある、彼等とゝもに生き、ともにかたる仲間である。子供の世界は小さい、やさしい、やはらかい世界、原始人の世界は大きな、氣味のわるい壯嚴な世界であつて、しかもその發達せざる心の持主としての彼等子供は理智に生くる我々大人よりも、如何に正直に生きてゐることであらうか。發達こそしていないであらうが、自己に眞實に生きる彼等のまへにたつ時に、知識といふ利巧らしい名目にまどはされてゐる我々自身を恥ぢなければならない。こゝまで味はうことが出來なければ、我々は、決して子供をよく導いて行くことが出來ない。しかも我々の心持の中には、進化論的に云へば子供を足の下にうごめくものと

し、支配したい氣持があるけれども、人類の故郷から發した叫びから云へば、吾々は、この小さい子供の爲めに引上げられて行くように感ぜられる。こゝに一つの矛盾があり撞著がある。しかし、このなやみこそ、子供を相手とする人達の當然うくべきなやみである。これなくして、どうして我々は子供の相手となり得よう。

吾々大人はどうも甚だ正直でない。心にひらめくさまざまのことをそのまゝぢつと見つめることをしないで、すぐに、よいとかわるいとか思つておさへたり打消したりしようとあせる。しかし、もし虚心平氣に我が心におこるさまざまの心持をうけとるとすれば、美しきにせよみにくきにせよ、善きにせよ、惡しきにせよ、そは何等か當然おこるべき權利をもつて我がうちにおこつて來た心持に相違ない。先づ取りあへずその心持に生きる、しかして、もし、それがいけないことであるとすれば、何故さういふことが我が心におこつたかをたづねたならよいではないか。その原因は何處にあるか、或は遠く我々の故郷たる原始人にさかのぼつて其處にその源を發しておるかもわからない。正直に生きる、我が心をいつはらない、この心はやがて子供の眞實にふれて、彼等によつて敎へられることで、もし我々が子供は發達せざるの故をもつてだめなものと見くびるようなことをするならば、それは我自分を、また人間そのものをみくびることゝなるであらう。

子供の世界は、大人の世界と全く別のものではない、今假りに凸レンズを通じて事物を見る場合にたとへて考へて見れば大人の世界を實物とすれば、子供の世界はレンズを通じてむすばれた像である。實物でない實生活でないといふけれども、その中にえがき出される像は大人の世界にあるものゝ反映である。みにくいものがあらうと美しいものがあらうと、それは人間として有するものゝ事實である。子供の生活を虚心平氣にみつめて、「困るぢやないかこんな生きかたをしては」と叱つてみたところが、それが大人の世界にもあるものならば、どうして我々は彼等をさばくことが出來ようか。我々は大人なるが故に、發達しているが故に、子供より偉大であるといふことがどうして出來ようか、人間が人間としての偉大は眞實に生きるといふことである。そしてまた眞實に生きるものゝまへに、不正直な我が心の姿をはづる

だけの謙遜な心がなければならぬ。

人間が人間としての眞實の生活には靈的方面と肉的方面との二つがある。前にものべたように原型としての生活は不分化の生活であつたが、その後になつて、宗教と藝術と科學とにわかれた。宗教の世界ではすべてを靈化した。卽ちあらゆるものを、物としてみないでその中に靈ありとするので、これが發展して來れば、あらゆるものを靈の權化とする、そして物質の世界を超越した世界を考へる。それ故にこの靈化の經驗といふものは、可成りに主觀的なものとなつてしまふ。また科學の世界では一々の物質をとらへて栓議するのであつて、例へばエチルギーといふものはどう、電氣の本質は如何と、自然界の物質を忠實に究めて行くのであつて、卽ち靈化に對して物化する世界で、これはまた客觀的といへよう。扨こゝに靈化と物化の二つの世界に於て我々人間はどう生きるかといふに、靈化の世界ではあまりに高尙すぎ抽象すぎて、到底この肉體をそなへたものがそこに徹底して生きるといふことが出來ない。さりとて、すべてを物化してしまつては、また、味がなさすぎる。そこでこの二つの世界をむすびつける世界が藝術の世界となる。それ故藝術の世界は靈化、物化に對して人化する世界といへよう。そして、また、主觀と客觀との兩方面を結びつける合一的の世界である。一面に神の性を、一面に動物の性をそなへてゐる我々人間は、この合一的の世界に於てこそ、初めて、おちつくことが出來るのである。神といひ佛といつても、それが、我々の有する、なやみも、もだえも一向に知らないたゞ神聖なものであるならばすがる術も、すくはれたいのぞみも如何ともすることが出來ない。どんな立派な教にしても、これをとくものに肉的のつよさ厚さがなければ、その教は決して人をひきつけるだけのものにはならない。

かの中世紀に、苦受マリア（マテール・ドロロサ）が多くの處女たちの祈願の的となつたといふのも、これは人間としてさま〴〵のなやみをもつ處女たちにとつては、キリストはあまりに高く、あまりにおごそかで、近づきがたく思はれたので、それよりもキリストを生み、そだて、しかも彼を十字架のもとにおくつた聖母マリアの人間としてのなやみを經驗したその愛の腕にすがりつき、それによつてすくはれたいといふ、卽ち人間味のゆたかなるねがひの心持

である。一つの花を見て美しいといふ。その心は、單に花を花として物質的に見るのでなしに、それに生命を與へるのである。乙女が花の一片を摘んで之に頰ずりしたり、接吻したり、さては、しほれた一片を詩集の間にはさみこむその心は、花に自分の心を投げかけて、それを人化したのである。

このような意味で、藝術の世界こそ、我々が人間味をゆたかに味はつて生きて行くことが出來る世界である。この世界は知る世界でなくて感ずる世界である、したがつて、各々の人が自分の內面生活の深さによつて、その見る世界も、うけ入れるものもことなつて來る。

さて、この見地から子供の生活、ことにその畫く繪といふものを見ると我々は原始人の繪にあるプリミティーブな、力づよい感を禁じ得ない。子供は外界の事物をそのまゝに見るといふことはしないで、實に大膽に自分自身をそちらになげかけて行く。それ故、彼等のゑがく一本の木も、一つの山も、それは彼等自身を其處に表現するのである。そこで子供のかく繪には、せまつてくるようなつよさがある。單なる外界の模寫でなしにそこに生命がうごいてゐる。彼等は知識でかくのでなしに感じでかく。それを、我々大人はともすれば、理屈にこりかたまつた眼でながめるので、甚だしきは自己にせまつて來るその子供自身の表現にさへ感ずることもなしに、その偉大に驚くこともしないで、幼稚だとか、かはいいとかいつてのけてしまふ。

純眞な素朴なしかして力づよい感じそのものに生きることを忘れた我々大人は、此處へ來ると、子供のまへにぬかづきたい氣がする。靈的に生きようとあせつてもがく人々のあはれな姿や、物的に萬物を解釋しようとりきんで、しかも全く、靈的方面をすてられもせぬ人々のみにくい姿をあはれむように、子供等は、思ふまゝに藝術の世界に浸つてゐる。眞實に自己に生き、自己をあらゆるものゝ中に表現せずんばやまないあの力づよさに生きる子供の相手とならうとするには、先づ自己に眞實に正直に生き、謙遜な心で子供の偉大に驚くものでなければならない。

かの有名な佛の畫家ゴーガンがわざ〳〵亞米利加のある島へ行つて、野蠻人の生活を研究して如何にかれらが大膽に卒直に自己を表現するかに驚きそれによつて、彼自身の畫風も一新生面をひらき、ひいて近代の畫界に影響を與へたといふことは、畢竟以上のべたような心持と同じで、如何に我々の生活が知識にわづらはされてゐるかの反證にもなるのである。

子供を教へるといふ言葉はこの意味からすればまことに僭越なことで、教へるどころか、我々の方がかへつてその偉さに驚嘆しつゝ我を恥ぢるので、ただ我々の心持ちは、彼等を善導したいのであるけれども、それが出來なければ、せめて、もつてゐるその貴い生活をそこなはないようにと祈りたい。これが彼等に對して我々のなし得るせめてものれがひであればならぬ

（文責筆記者）

子供と食物

‖某講演會における筆記大要校閲を經ず‖

醫學士　青木醇一述

○乳兒の榮養

乳兒の食物として、唯一のものは、母乳であることは申す迄もありません。これは實に自然によくしたもので、母乳のみで完全なる發育をとげることが出來るものです。その成分は。

水……八八。蛋白質……一・二。糖分……七・〇。脂肪……三・〇。灰分……〇・二。で、これの熱量は七〇カロリーです。これを牛乳とくらべてみますと、牛乳の成分は。

水……八七。蛋白質……三・〇。糖分……四・〇。脂肪……三・〇。灰分……〇・七。で、これの熱量は六七です。

人乳によつて育つた子供と、牛乳のみで育つた子供とについて多人數比較した結果によれば、體重の上に大に差があります。そしてまた、牛乳で育つた子供は、どうしても、疾病にかゝりやすいもので死亡率も多いのです。

扨、乳兒の營養について、今少し詳しく申述べますならば、生後一晝夜位は、何にも與へなくてよいのです。もし、與へるとすれば、少量の薄い砂糖水を匙で一杯ぐらゐのませます。大抵一晝夜位は眠つてゐます。その後、乳を與へるようになりますと、はじめは、二時間或は二時間半置き位にして、一晝夜に七八回與へ、次第にその時間をのばして行き、三ケ月、四ケ月位になると、六七回になります。夜間は、どうしても子供はよくねむりますから、間の時間がのびるわけです、七八ケ月から一ケ年は五回位でよろしい。よく世間では、子供を慰める手段でもあるかのやうに、子供が泣くとすぐ乳をつけるといふことをしますが、あれは誠に不規則なやり方で、子供にわるい習慣をつけ、子供の落付きをなくして、

いつも不滿足な心持にしてしまひます。これは、母乳でも牛乳でも同じことです。精神上にわるい影響を與へるにとゞまりません、そんなに度々與へれば、消化器を害してしまひます。

母乳は、前にも申しましたやうに、濃さも甘さもまことによく出來て居りますが、牛乳はそのまゝ用ふるわけにはまゐりません。水でうすめねばなりません。その割合はどうかと申しますと、古い表などでは初めは水を三、牛乳を一としてありますが、近來はこれでは、いかに生れたての子供といつても薄すぎるといふことになつてゐます。うすめ方は先づ次のやうです。

	水	牛乳
生れたて……二		一
一ヶ月位……一		一
五六ヶ月位……二		一

それ以後、八九ヶ月頃になれば水を混じないでよろしいのです。薄めた牛乳を多く與へても、養分が薄められてゐるのですから、どうしても、薄めない時の養分だけを得るほど多くのめるものではありませんからそこで滋養價値をおぎのふために砂糖をいれるのです。之は單に甘くするために入れると思つては考へちがひで、全く必樞な滋養品なのです。左表は、人乳榮養兒と牛乳榮養兒との體重を比較したものです。

各週終	人乳榮養	牛乳榮養
分娩時	三四三三	三四六七
一週	三四〇八	三三一四
二週	三五六七	三三八四
四週	四〇〇八	三六八三
八週	四九〇七	四三〇三
十二週	五六〇〇	四九一一
十六週	六二九四	五五三二
二十週	六八二四	六一八一
三二週	八一七五	七七八三
五二週	一〇一四一	九六二四

○離乳期の食物

乳兒が一年前後になりましてもまだ人乳または牛乳以外に何も與へなければ、肥えてはゐますが、皮膚の色がよくないといふ現象をしめして來ます。ま

た、骨格の發育がわるくなるといふことがおこります。これはある要素がかけるためで、乳以外の食物が必要になつて來た證據です。また六七ヶ月頃からは齒がはえて來ますが、これも、たしかに乳といふ流動物の以外のものを用ひてよい時期にあることを證明するものです。

そこで、この時期には食物として如何なるものを與へるかと申しますと、初めは輕いお菓子のやうなものをなめさせてみるといふところから初めます。それからおも湯のやうなもの、又母乳のみの子ならば牛乳つゞいては、おかゆを一つ匙二つ匙より初めて一杯二杯とまして行きますそして七八ヶ月の頃からこれを初めて、一年二三ヶ月位になると乳がなくともよいようにするのです。出來れば滿一年位で母乳をやめたいものです。しかし日本の習慣では、かなりながくのんでゐるようでありますから、一年ですぐといふことは實行上困難でありませうが、出來れば一年又は一年二三ヶ月一年半でやめる方が母親のためにも、子のためにも健康上よろしいのです。

授全く乳をはなれし子供の食事は如何といふに、その回數は五回として。

朝おかゆ(又はおぢや)　卵又は野菜　晝同上

夕同上

この間に二回の間食がはいります。十時頃に牛乳と菓子でもつけてやる、又、午後の三時におもゆと菓子といふやうにする、一年半位まではこの位の食事で大丈夫です。どうしても母乳がはなせなければ十時又は三時の時に與へるようにするのがよろしい。魚類の新しいものは晝食に與へるのがよろしいのです。

野菜のようなものは、一年近くなれば與へてもよいのです。しかし、それも、子供の嗜好によるので、いやであつたら、好きになるまでのばすのがよいのです。與へる野菜としては、馬鈴薯がよく、これをうらごしにかければ、なほ結構です。菜としては、ほうれん草などがよろし、青菜を與へると菜の形のまゝ便に出ることがありますが、あれは別に差支へはないのです。いんげん豆の(白)やうなものならば皮をむいてやる方がよろしい。皮は不消化です。

魚類も同じ時期から與へてよろし(一年乃至一年二三ヶ月頃)初めは、かるい魚類がよろし、きす、かれい、かます、のごとき、すべて脂肪の少ないもの

でなければなりません。これを、ごく鹽氣をうすくして煮るとよろしい。肉類(牛、鳥等)はまだ、この頃には與へてはなりません。まだ齒が出揃つてゐないし、よく咀嚼することが出來ないからです。

菓子類としては消化しやすいものは、七八ヶ月のころから與へてよろし、主として砂糖と澱粉を主としたもので、口に入れゝば唾液で自然にとけるようなものがよろしい。

○幼兒と食物

離乳期以後の子供卽ち幼兒の食物は如何といふに、この場合には、幼兒の生理狀態とてらしあはしてみねばなりません。第一に注意すべきは、幼兒の發育といふことで、これは食物の分量に大なる關係をもちます。大人の食物は我々の生活をいとなむために必要なだけの食物をとつて行けばよろしい。つまりはたらいてゐて同じ體重を維持して行けるだけの食物でよいのです。しかるに子供は單に體重をたもつて行くに必要なだけの食物以外に發育するだけのものを與へねばなりません。子供は大人にくらべて非常に澤山にたべるものですが、しかしこれはいたづらに過食でなく、自然の要求であるのです。又、子供は身體が全體に小さい。それゆゑ、小さいものは大きいものに比して表面積の割合が多くなる。皮膚面は大人の體の大さとその皮膚面積にくらべて大きい。それゆゑ熱を體からうばはれることが多いので、それだけ食物を澤山に要することになります。

尙幼稚園期の子供になると、活動が盛になつて來ます。朝から夜までうごいてゐます。それだけ、つまり、エネルギーをそとにつひやすわけでありますから、それで食物を多量に要するのです。しからば子供にはどれだけの分量を與ふべきか、これは理論的には人體の表面積を標準をするとよいのでありますが、實行上の便利のために體重を標準としてわり出すのです。

乳兒ならば體重一キログラムに對して、一〇〇乃至一二〇カロリーを要します。乳の分量で申しますと、母乳ならば一〇〇瓦(五匁)は七〇カロリーの熱量をもつてゐます。初生兒は三キログラムの目方があるとすれば三〇〇乃至三六〇カロリーを要する故に、卽ち母乳ならば、凡そ、二合から二合五匁の量に

なります。ところが生後一年になれば一キログラムの目方に對して六〇乃至七〇カロリーあればよい。大人ならば一キログラムの體重に對して三二乃至三五カロリーでよい。實際上ではこれがまた個人によつて差があるから、すぐこのまゝをきめることは出來ません。しかし幸にも、我々には食慾といふものがある、子供は正直に饑餓をうつたへます。その時に、之を與へればよいのです。ほしがるものを無理に制限したり、又はたべたがらないのを無理におしこむこともない。しかし、又、母親がよく注意して、平常とあまり違つてたべる時には分量を注意するといふことがおこります。その加減は注意深い母親の手にあることです。

○子供に與ふべき食物の性質とその度數

これには消化機能をよく考へねばなりません。ここで第一に顯著なる事實は齒です。そして、子供の齒はまことに弱い。ことに大臼齒がありません。それ故與ふべき食物を氣をつけねばならぬし、また、胃腸のはたらきが大變によわくその上に、まだ、いろ〳〵の一般の食物になれてゐませんから、ちきに胃腸をそこなはれやすいのです。この點からも、消化のよいものを與へることがよいのです。けれども、まだ、一方に鍛練といふことが大切です。消化のよいものばかり與へてゐれば、胃腸がいつ迄も丈夫になりませず、また齒も丈夫にならないわけですから、時々、適當に齒をよくつかふようなものをまぜるがよろしい。

次に幼兒の食事の回數はと申しますと、幼兒は食物の分量を多く要求しますから、三度では足りません。さりとて、一度に多く與へては消化器の負擔がおもすぎていけません。大體、幼稚園以前には、(離乳以後)五回とし、朝、晝、夕、の主食のほかに、二回の間食を與へる。主食は普通の食事でよいのです。間食の中午前のは、ごくわづかがよろしい、牛乳ならば五勺位與へればよい。午後、(三時又は三時半)の時には比較的多く與へます。卽ち主食の三分の一乃至二位がよろしい。間食は子供にとつて決して慰みではありません。實際生理上から要求する大切な食物であります。

幼稚園期の子供になれば、午前の間食をぬくようにします。ことに幼稚園に來て、お辨當をつかふようでは、晝食は家でたべるよりも少ないのですから、おやつは是非與へねばなりません。お菓子を與へますことは、子供のよろこびとなるのみならず、子供は大人にくらべても砂糖分を多く要するのです。これは、子供にとつてかくべからざる榮養分なのです。たゞ菓子を選擇することは勿論大切で充分新しい滋養になるものをとらねばなりません。それからまたたゞやたらに回數をきめずに與へては子供の胃腸を害することになつてしまひます。いくら子供がほしがつてもきめた時間以外に與へてはいけません。

○食品の選擇

我々の食品の成分は、無機類として、水、鹽類、有機物としては、蛋白質、含水炭素、脂肪であります。此中、我々のエネルギーとなるものは後者の三つであります。それ故榮養分としてはこの三つを必要とするのですが、しかし、この三つの中の一つだけが澤山あればそれでよいといふのではありません。どれも一樣に必要であります。動物性のものは、脂肪、蛋白質を、植物性の食品は含水炭素を含んでゐます。それ故此兩者をまぜてたべればよいわけです。

この內で、肉類は子供には度々與へる必要はありません。せい〳〵一日一回も與へればよろしい。一回も無理につかはなくてもよろしいのです。卵も、何でもかでも與へねばならぬとはきまりません。與へるとしても一日に二つが極限で、それ以上は無駄です。幼稚園期位には一つでよいのです。これは實驗してもわかるので、我々は三つも四つも卵をたべて後、尿を檢査すると皆卵から來た蛋白質はこゝに出てゐることがわかります。ことに卵を多く用ふると子供は祕結します。それ故便祕しやすい子は、野菜類を多く用ふる方がよろしいのです。この反對に下痢しやすいものには、なるべく、野菜や果物を減じて、魚類などを多く用ふるようにした方がよろしい。

こゝに注意しなければなりませんことは、食品の選擇の場合にやたらに、蛋白質がよいと考へすぎて、野菜類を與へないで、魚類などばかり與へるようなことをすると、子供の身體に缺陷を生ずるようになります。これ迄は何でも蛋白質が大切であると考へ

られてゐましたが近來は、尙、これ以外に大切な要素があるといふことがわかつて來ました。日露戰役の時に、罐詰類のみたべてゐた露國軍人が貧血をおし、齒ぐきから出血をしたりして瀕死の狀態になりました。これは卽ち新鮮な野菜類の中にあるヴィタミン(活素)がかけてゐたゝめで、かゝる病人を救ふには、新鮮なる野菜、果物を與へればよろしいのです。日本人はよく野菜をとるからよろしいのですが、西洋人はよく所謂壞血病にかゝりやすい。これは、牛乳で榮養してゐる小兒にも同じやうな病氣にかゝることがあります。ことに、コンデンスミルクなどで育てた子供が、時に、顏色蒼白となり齒莖から出血し、骨から出血し、また骨がいたむといふ病氣をおこすことがあります。これはメルレル、バロー氏病といひますが、これはヴィタミンといふようなものがながく熱したゝめになくなつてしまつたものを與へるためです。かゝる時に果實汁を與へるとか、人乳を與へるとかすれば大抵はたすかるものです。牛乳などもあまりながく煮てはこの要素をうしなつてしまつてかへつていけません。

最近に、東京に住む人で、父は醫者、母は子供の養育には注意ぶかい人で、その子供に、野菜類は下痢をするとて一切與へず、よく煮た粥と、卵のみをながい間與へてゐました。その子供がある時、ふと足がうごかなくなり、次には足がはれて、非常にいたむので外科病院につれて行き、ながく入院して治療をうけたけれどもわからない。X線にかけて見てもわからぬといふので、つひに大學病院につれて來ました。私はこの病氣がメルレルバロー氏病に近いと思つて、平常どんな食物を與へてゐるかといふことを聞いて、判斷をしました。それから、何等の藥をも與へず、林檎の汁をのませました。すると、一日々々となほり、一週間で足がうごき、二週間で退院が出來るようになつたのです。これは實によい例であつて、食物は何でもまんべんなく與へ、やたらに煮すぎたものばかりを與へるようなことをしてはなりません。

序でに、ソップについて一言したい。これは從來はきはめて、榮養價値のあるものとしてゐましたが、分析して見ますとソップの滋養價値は零です。しかしこれは、胃にはいつてから、胃の粘膜を刺戟して食慾をおこす役をするのです。それ故、ソップのみ

とつてゐては、榮養にはなりません。

牛乳は、大人にとつても、子供にとつても、きはめてよい榮養品です。牛乳の中には、いろ〳〵の養分がふくまれてゐますから、出來るだけ子供に與へた方がよいけれども、しかしこれは澤山に與へる必要はありません。幼稚園期などは、一合乃至一合五勺與へれば充分です。これ以上澤山與へる必要はありません。牛乳を多く與へたゝめに、他の食物を減ずるようではかへつていけません。

尙、牛乳の腐敗といふことについて一言しておきます。牛乳は、何故早くくさるかといへば、牛乳にしても、人乳にしても、乳房から出る時には、黴菌は少しもはいつてゐません。しかしその後に外部からはいるのです。榨乳の際に、人の手に、容器に、又空氣中に黴菌が多いのですから、それで榨つたばかりの牛乳のなかに澤山の黴菌があります。その中でも、乳酸菌が一番多い。これが時間の經過とゝもに牛乳中で盛に繁殖します。ことにあつい時には早く繁殖します。それからまたこの乳酸菌は特に牛乳中でよく繁殖するので、ことにその中にある乳糖に作用して乳酸醱酵をおこし、牛乳の中に乳酸といふ酸をつくることになります。この酸が牛乳の中にある蛋白質をかためます。それゆゑ、くさつた牛乳の中には豆腐のようなかたまりが出來る。これは上述の蛋白質がかたまつたからです。それ故、牛乳を用ふるには消毒する事が大切です。これの一番簡單な方法は煮沸するといふことです。熱を加ふれば乳酸菌は六〇度乃至七〇度で死んでしまひます。時には牛乳の中にも、赤痢、チブス等の病原菌が混入することもありますが、これらも、六〇度乃至七〇度位で死んでしまひます。尙一度煮沸した牛乳でも、ながくおけばまた腐敗します。これは、新たにまた空氣中から黴菌が入るからです。それゆゑ貯へ方が大切です。それには黴菌の繁殖は溫度に關係します。攝氏三十六度位が一番適溫です。ことに病原菌（赤痢、コレラ等のごとき）は、この溫度で猛烈に殖えます。それ故に冷やしておくといふことが大切です。

○子供の食事上の注意

子供は食事をする時には、よくものを咀嚼してたべるといふようにしむけることが必要です。卽ち、これによつて、大きな食物は口中にある間に小さく

されますから、したがつて、胃の負擔が減じて來ます。胃では胃液は食物の表面にだけはたらくものですから、大きなものでは、內部迄なか〳〵はたらきません。また、次には口中で唾液をよくまぜるようにすることが大切で、これは、嚥みこみやすくなるばかりでなく、澱粉類の消化には唾液の中にある酵素がはたらくのでありますから口中にある中に唾液の作用を充分にうけさせなければいけません。唾液中のプチアリンがこの作用をするので、すぐ咀嚼すればゆつくり胃に送り込まれますから、一度に胃の負擔をまさないことになります。

また、食べる時には愉快にたべさせることが大切で樂しく、平和にたべさせること、また、うまいといふ感じをもたせてたべさせることも大切です。かうすれば胃液の分泌が大に盛になつてくるのです。胃液の分泌と、精神作用とは、大に關係するからで、幼稚園などでも、食事の時にあまりきびしくかまひすぎると、ことに神經質の子供はそのために食慾を減じてしまふことがありますから氣をつけねばなりません。

序に辨當のことですが、どうもお辨當となると分量が少くていけません。幼稚園期の子供にとつては、晝食は大切な主食なのですから澤山に與へねばなりません。それをお辨當だからといつて間に合せのようなことを考へては大間違ひです。家庭でたべると同じだけの分量を、時間もゆつくりとたべさせるように幼稚園の方でも氣をつけねばなりません。また、夏になるとことに副食物が腐敗しやすくなりますから、これには細心の注意をはらひ、器物のごときも充分清潔にするようにせねばなりません。（文責筆記者）

＝寄稿を歡迎致します!!!

本誌に掲載いたしました乙竹岩造教授の簡易幼稚園に關するお話は、大層有益なまたこの實行の上に興味多きことゝ存じます。愛讀者諸君の中には、その地方地方で、いろ〳〵の趣向で既にこの意味の保育を實行しておられる處もあらうかと存じますし、又、その土地により、實際上、御意見なり、御研究なりあらうかと存じます、ことにこの夏休みにはかうした御經驗もおありの事と存じます。この問題に關して廣く皆樣方の御寄稿を得て本誌が之を紹介し更に研究をすゝめて行きたいと存じますから何卒この問題についてどしどし御投書下さい。歡迎致します。尙各地保育界の狀況もあはせておしらせ頂ければ、お互に益するところ多からうと存じます、尙、御寄稿に關する一切は東京市日本橋區岩附町一番地、小高艷方へ願ます。

親の為

八月號要目

子を持ちて知る子の恩……吉田熊次
小供の年齢と傳染病との關係……栗山重信
大正八年度林間保育の成績……神戸幼稚園
休暇と子供……巖谷小波
歐米の遊戯を日本化せしむるには……土川五郎
夏の自然と玩具……黑田朋信
幼兒保育の實際案……久保良英
幼兒の食物……一戸伊勢子
海外教育・兒童相談・當選育兒談發表其他種々

一冊　定價　金貳拾五錢　郵稅壹錢
半年分　定價　金壹圓五拾錢　郵稅不要
一年分　定價　金參圓　郵稅不要

發行所　東京市芝區白金三光町五三七番地　兒童研究所
振替東京三六二二九番

本誌は最も平易な、最も教育的な子供繪雜誌たるべく苦心して居ります

コドモ童話

幼年雜誌

良友

本誌はコドモの兄樣姉樣に當り、小學生の讀物として最も適當な雜誌です

近來子供雜誌や繪本類が非常に多くなつて、既に二三十種に達してゐる。

世の父兄諸氏は、この多くの同種中、はたして何れを子弟の爲に選ばるゝであらうか。

單に玩具と見做して、その選擇を慢然兒童の取捨に一任して置いてよいであらうか。

發行所　東京市小石川區林町五十七番地　コドモ社　電話小石川一六二一九八

日本幼稚園協會役員

會長

湯原元一

主幹

倉橋惣三

幹事（イロハ順）

井村くに　池田トヨ（會計）坂内ミツ（庶務）星野樂　和田實
和田くら　梶原榕　土川五郎　奈良山梅　向井琴柱
小向きみ　小山はな　小高つや（編輯）及川ふみ

評議員（イロハ順）

乙竹岩造　吉田熊次　田中ふさ　野口幽香　安井哲
槇山榮次　藤井利譽　下田次郎　日田權一

地方委員（イロハ順）

折井彌留枝　大和田りよう　坪内きく　宇式かん　久住モト
坂井ふで　司馬のぶ　望月くに　藤たけ

加盟保育會

東京市保育會　京都保育會　大阪市保育會　神戸市保育會　靜岡縣保育會
名古屋保育會　香川縣保育會　福島縣保育會　吉備保育會

明治三十四年一月二十八日第三種郵便物認可（毎月一回十五日發行）
幼兒敎育　第二十卷第八號
大正九年八月十二日印刷
大正九年八月十五日發行
印刷所　合資會社　杏林舍